平成 25 年度　東京都内湾水生生物調査　2 月鳥類調査　速報

●実施状況

平成 26 年 2 月 18 日に鳥類調査を実施した。天気は快晴～曇、気温 7.2～7.8℃、北西～北の風、風速 3.0～4.2m/s であった。当日は中潮で、潮位は 12 時 53 分 干潮(48cm)、18 時 48 分 満潮(178cm)であった(気象庁東京検潮所)。各地点の状況を下表に示す。

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
作業時刻	10:35-11:43	14:22-15:26	13:00-13:45
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	7.2	7.8	7.8
風向	北西	北	北西
風速(m/s)	4.0	3.0	4.2
備考	干潟が広く干出していた。 水たまりが多く出来ていた。	砂浜を散策する人(24人)、船着き場を行き来する人(12人)、磯浜で休息する人(3人)が見られた。 作業船が鳥の島付近で工事をしていた。	干潟が広く干出していた。

●主な出現種等

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
数が多かった鳥類上位2種	スズガモ(7644羽) カンムリカイツブリ(653羽)	カワウ(1090羽) スズガモ(365羽)	コガモ(185羽) ユリカモメ(178羽)
その他の鳥類	マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ウミアイサ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、シロチドリ、アオアシシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ	マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、アオサギ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、ハクセキレイ	ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハジロカイツブリ、カワウ、オオバン、イソシギ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハクセキレイ
備考	・海上では多数のスズガモ、カンムリカイツブリが休息、採餌。 ・干潟でコサギ、シロチドリ、アオアシシギ、ハマシギが採餌。ズグロカモメ、ユリカモメなど、カモメ類が休息。 ・消波ブロックでカワウ、アオサギ、マガモが休息。 ・重要種として、8種を確認(スズガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、コサギ、シロチドリ、アオアシシギ、ハマシギ、ズグロカモメ)。	・カワウの個体数は1月よりも増加。第六台場、鳥の島で雛の姿、鳴き声を確認。 ・第六台場のササと低木の茂る一角で、婚姻色のアオサギを多数確認。ササ藪内の樹木に営巣していると思われる。 ・海浜公園の海上でスズガモ、ホシハジロが休息。 ・砂浜の波打ち際で餌を撒く人がおり、ユリカモメが集まる。 ・重要種として、3種を確認(スズガモ、オオバン、トビ)。	・干潟でカワウ、カモメ類、カモ類が休息。 ・干潟周辺の海上、護岸等でカモ類、オオバンが採餌、休息。 ・杭の上でミサゴ、トビ、カワウが休息。 ・重要種として、4種を確認(オオバン、イソシギ、ミサゴ、トビ)。

●出現種と個体数

No.	目名	科名	種名	調査時期 5月			調査時期 7月			調査時期 8月			調査時期 9月			調査時期 1月			調査時期 2月			重要種 選定基準			
				葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	文化財保護法	種の保存法	環境省RL 2012 鳥類	東京都RL 2010 (区)
1	カモ	カモ	ヒドリガモ															1			7				
2			マガモ															21	4	6	17				
3			カルガモ	5	7	8	9	11	8	17	1	15	7	5	51		3	41		2	27				
4			ハシビロガモ															14			9				
5			オナガガモ				1					1	1		1		21	8	3	5	17				
6			コガモ												4			38			185				
7			ホシハジロ															70	63	11	12				
8			キンクロハジロ															25			20				
9			スズガモ	4			6			8			32			11130	316		7644	365						*
10			ウミアイサ																1							DD
11	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	3			3			1					1	312			653							*
12			ハジロカイツブリ															1	36		1				
13	カツオドリ	ウ	カワウ	102	666	84	210	1131	259	607	142	766	352	282	25	13	575	10	26	1090	7				
14	ペリカン	サギ	ゴイサギ		1			2						7											
15			アオサギ	8	35	1	7	32	4	25	22	5	33	18	22	2	31	2	3	37					
16			ダイサギ	1	6			3	1	18	5	8	43	2	9	1									VU
17			チュウサギ							2			3											NT	VU
18			コサギ	2	4	1	2	47	1	7	11	7	4	3	5	6			2						VU
19	ツル	クイナ	バン										1												VU
20			オオバン														2	31		16	45				VU
21	チドリ	チドリ	ムナグロ									1	5												VU
22			ダイゼン							2															VU
23			コチドリ	1		1			2																VU
24			シロチドリ	8		5	4		2	29			6		2	24			26					VU	VU
25			メダイチドリ							5		24			1										NT
26		ミヤコドリ	ミヤコドリ	26						9															EN
27		シギ	オオソリハシシギ	1						1														VU	EN
28			チュウシャクシギ	2		1																			VU
29			ダイシャクシギ	1						1						1									CR
30			ホウロクシギ							1			1											VU	CR
31			アオアシシギ										2			3			2						NT
32			キアシシギ		5	1					4		1												VU
33			ソリハシシギ									2			5										VU
34			イソシギ			2					1	4		2	1	1		2			1				VU
35			キョウジョシギ		4	1																			VU
36			トウネン	1								1													NT
37			サルハマシギ										1												CR
38			ハマシギ													94			12					NT	NT
39		カモメ	ユリカモメ	2	2	28						2			21	4	28	7	148	128	178				
40			ズグロカモメ																1					VU	
41			ウミネコ		2	1	17		2	684	22	112	1010	34	68										
42			カモメ													16			6		1				
43			セグロカモメ			1										30	5	3	36	9	36				
44			オオセグロカモメ	2		1				40	2	1	28		1	2		1	3		2				
			大型カモメ※1	1									11						1						
			中型カモメ※2														1								
			小型カモメ※3													1									
45			コアジサシ	42			3		13			2											国際	VU	EN
46			アジサシ	378																					
47	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1									1		1	1					1			NT	EN
48		タカ	トビ												4			1		1	1				NT
49	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ					1					1	1	1	1	1	4		2	1				
確認種数	8目	12科	49種	19種※1	10種	14種	10種	7種	9種	17種	9種	15種	19種※1	9種	18種	17種※3	9種※2	18種	18種※1	12種	19種	0種	1種	8種	29種
合計個体数				591	732	136	262	1227	292	1457	210	951	1543	354	223	11642	983	280	8670	1672	568				

和名、種の配列は、日本鳥学会(目録編集委員会)(編) (2012)『日本鳥類目録改訂第7版』 日本鳥学会に準拠した。

※1:大型カモメに分類されるセグロカモメ、オオセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数に数えない。
※2:中型カモメに分類されるカモメが確認されているので「中型カモメ」は確認種数に数えない。
※3:小型カモメに分類されるユリカモメが確認されているので「小型カモメ」は確認種数に数えない。

種の保存法 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されたもの
国際:国際希少野生動物

環境省RL 環境省(2012)報道発表資料『第4次レッドリストの公表について(お知らせ)』において選定されたもの
VU:絶滅危惧II類 絶滅の危険が増大している種
NT:絶滅危惧II類 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種□

東京都RL 東京都環境局 (2010) 「東京都の保護上重要な野生生物種(地域名)」の区部において選定されたもの
CR:絶滅危惧IA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険が極めて高いもの
EN:絶滅危惧IB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
VU:絶滅危惧II類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT:準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD:情報不足 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
＊:留意種 現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの

前回の調査(平成 26 年 1 月 20 日)と比べ、カモ類、カモメ類などの東京湾近郊で越冬する冬鳥の種数に、大きな変化は見られなかった。コガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、ユリカモメの個体数が増加した。キンクロハジロ、スズガモ、ハマシギの個体数は減少した(参考文献 1)。

昨年度(平成 25 年 2 月 26 日)の調査と比較すると、スズガモの個体数は減少した(平成 25 年 2 月：23,087 個体 ⇒ 平成 26 年 2 月：8,009 個体)。カモ類の種数、セグロカモメの個体数は増加した。ハマシギの個体数は少なかった。

お台場海浜公園の第六台場・鳥の島では、巣に座るカワウの成鳥のほかに、雛の鳴き声、雛の姿が確認された。また、婚姻色の表れたアオサギは、前回の調査の時よりも多かった。（サギ類は繁殖期になると、くちばしや目先、目の光彩の色、脚の色が変化し、婚姻色といわれる鮮やかな色になる。アオサギの場合はくちばしの根元、脚がピンク色になる。）アオサギの造巣期は 2 月～3 月であるため、繁殖活動が活発に行われていると思われる(参考文献 2)。

ズグロカモメ(葛西人工渚)
ユリカモメよりも小型で、くちばしが黒くて短い。(枠内はユリカモメ)
干潟で小型のカニを捕えて食べる。

カワウ（お台場海浜公園）

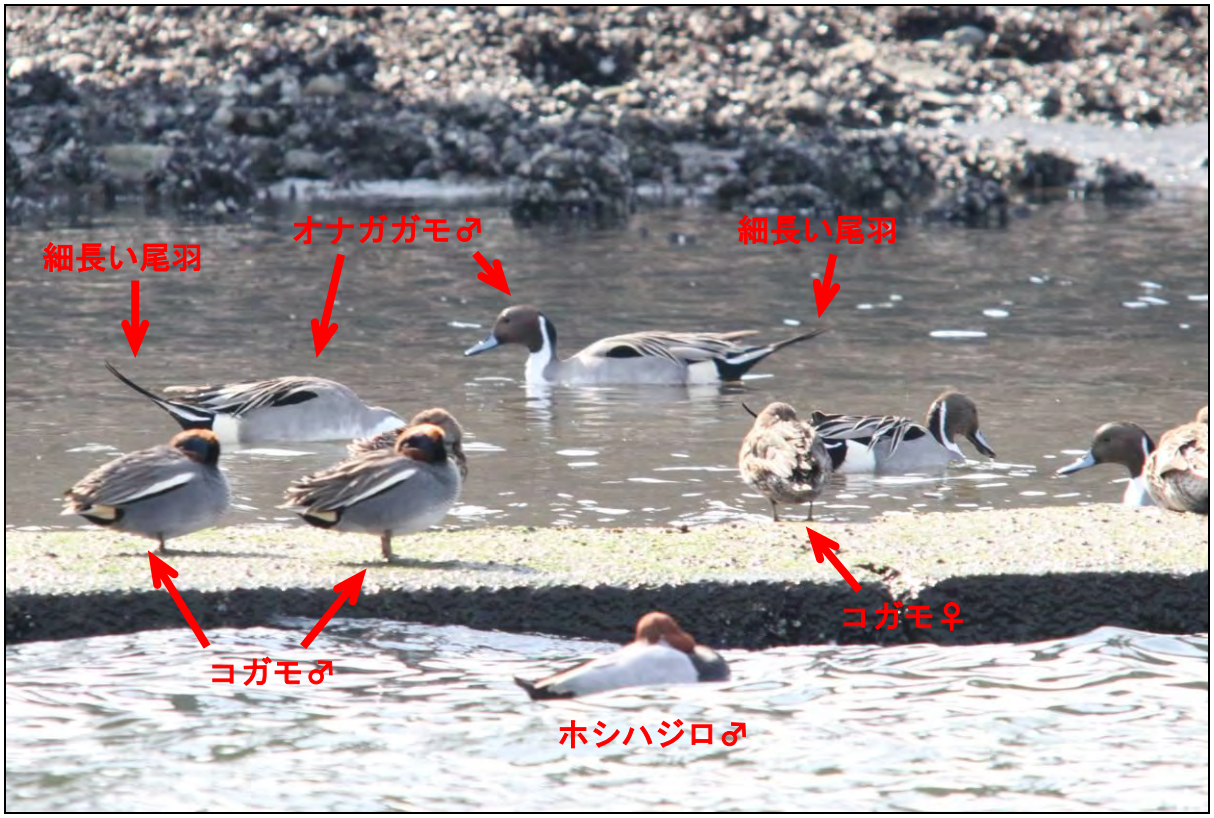
第六台場・鳥の島の巣で、雛が確認された。

雛の体羽は黒く、光沢がない。

ユリカモメ（お台場海浜公園）

人に慣れており、まかれた餌に群がる。

葛西人工渚、森ヶ崎の鼻でも、100 個体以上のユリカモメが確認された。



ホシハジロ、コガモ、オナガガモ（森ヶ崎の鼻）

護岸・水面で休息、浅瀬で採餌する。

オナガガモの名は、オスの細長い尾羽が由来になっている。

ミサゴ（森ヶ崎の鼻）

休息していた杭から飛び立つ。

上空から水面めがけて飛び込み、鋭い爪で魚をつかむ。

参照文献一覧

1　東京都環境局水環境課、平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 1 月鳥類調査 速報、http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo_bay/attachement/H260120%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E9%80%9F%E5%A0%B1.pdf、(2014/1/27)

2　白井　剛、多摩川中流域におけるアオサギの繁殖生態、Strix、1999、Vol.17、p85-91、http://www.wbsj.org/nature/public/strix/17/Strix17_09.pdf、(2014/2/19)